



78号 200円

新宿から

からだを考える

女の思いは遠く……ふしぎなエスカップ・シンポジウム
太平洋戦争前夜そっくり——母子保健施策強化の方向 6
タンポンは衛生上要注意？ 米国で死亡例も 8
国分寺に「未婚妊娠を支える会」 8

子どもとおんなのからだ育て「れらはるせ」 9
危険な避妊具が途上国に輸出されている
アメリカのフェミニストに聞いた「女のからだ」の話 14

読む——女の詩誌『いしゅたる』 18
声とひびき——森川万智子ほか 19
外国のフェミニストを案内して下さる方、連絡を、ほか 22
女のつどい・女の講座 23

各地のあごら連絡先 ☐ あごら旭川

☐ あごら旭川

- ・旭川市神楽岡1条5丁目3 田代慶子
・☎ 0166-65-6237 〒078-11

□あごら札幌

- ・札幌市西区琴似1条6丁目グランドハイツ琴似
408号 細田英理子
・電 011=644=2927 〒063

□あごら仙台

- ・ 仙台市八幡 2-13-40 山内満貴子
- ・ ☎ 0222=75=4655 〒982

☐ あごら浦和（連絡人募集中）

☐ あごら柏

- ・千葉県印旛郡白井町大山口1-7-20 桑原ちゑ子

☐ あごら北東京

- ・豊島区東池袋1-45-11 メゾン金子202
婦人協同法律事務所 志賀由美子
・☎03=985=3308 〒170

☐ あごら新宿

- ・新宿区新宿1-9-6 齐藤千代
・電 03=354=3941 (BOC) 〒160

■あごら武蔵野

- 小平市小川町 1-763-86 丹羽雅代
- ☎ 0423=43=6749 〒187

□あごら京王

- ・調布市仙川町 3-12-32 福井浅子
- ・ ☎ 03=308=7871 〒182

☐ あごら東海

- ・愛知県愛知郡東郷町白鳥4-5-1
押草団地113-305 石川方 加藤登紀子
・☎05613=9=2308 〒470-01

☐ あごろ京都

- ・京都市左京区一乗寺築田町56-1 塚崎美和子
- ・☎ 075=791=4623 〒606

☐ あごら大阪

- ・茨木市西駅前町10-323 遠藤由美
- ・電 0726-23-3495 〒567

☐ あごら九州

- ・福岡市西区笹丘2-4-6 小島豊子
- ・電 092=521=7624 千810

☐ あごら佐世保

- 佐世保市瀬戸越町1415-25 内田佳崇
- ☎ 0956-49-8591 〒857-01

狂氣と正氣



戦争中、「精神障害者」はどのような待遇を受けたか。

四十年前にさかのぼる記録を掘り起こした若い精神科医がいる。

入院中の患者の、家族の、看護婦、看護士の、医師の……ほう大な聞き書きを読み終えて、しばし呆然とした。

食糧危機のもと、あらゆる手だてをつくして人びとが生き延びたなかで、「治安」と「社会防衛」のために隔離収容され、善良であるがゆえに、非合法をなし得ず、「配給」だけで暮らしたこの人びとは、戦局が進むにつれ、からだがふくれ上がり、やがて激しい下痢、糞尿にまみれて死んでいった。——その数、最低二万とも、三万とも。

関係者の多くが亡くなり、あるいは老いたなか、掘り起こしの難事業を重ねたこの精神科医は、澄んだ目で語った。

「戦争を可能にするような社会がつくられたとき、すでに抹殺されている存在があったこと。差別的構造そのものが戦争の前段階であることを聞いたかった」と。

そして、小さな声でつけ加えた。

「本当なら、もっと前に、関係者自らの手

で書かれているべきだったと思いますが」

それは「戦前」のこととは思えない、と、

彼は言う。「戦後」の、そして「現在」の医療は、まさにその継承の中にあるのではない

か、と。告発は、精神科医としての自分自身に突き刺す刃である。この人、塚崎直樹氏。

△あごら京都▽塚崎美和子さんの相棒。

ナチスドイツは、精神「障害者」を「強制断種」し、やがて「抹殺」した。日本では「優生手術」は施したが、「抹殺」には至らなかった。ドイツに比し、日本のベッド数は十分の一以下。収容化の未熟が、抹殺計画を不可能にした、とも推測されている。

戦時下の沖繩で、言動のおかしい「障害者」は、スパイ視され、抹殺された。関東大震災で、「朝鮮人」と「主義者」は「危険な人間」として虐殺された。「有事」の際に、人間の猜疑心は果てしない狂気となる。「兇暴」なのはどちらの側であったのか……。 「優生保護法強化」、「精神障害者実態調査」、「拘禁二法」——の動きを、一環、一連の「戦争前段階」と感じる人間は「狂気」と断定される日が来ないとも限らない、と、ふと思う。

(斎藤 千代)

ふしぎなエスカップ・シンポジウム

草の根の女の思いとは 遠い会議になるのでは……

意見発表者、参加者公募中

ESCAP (アジア・太平洋地域) 婦人会議が、85年のケニア会議の前段階として3月26―30日の5日間、東京で開かれることは74号既報のとおりですが、この公式の政府間会議に先立って、3月22日(木)に「アジア太平洋地域婦人国際シンポジウムが開かれることになり、意見発表者(5人程度)と参加者(日本人男女Ⅱ婦人団体・国際協力団体・婦人行政関係者など700名、外国人男女ⅡESCAP地域から来(在)・日中の留学生・企業研修生・家族の来日に随伴した者、大公使館職員など300名)の公募要領がこのほど発表されました。

〔趣旨〕アジア・太平洋地域各国の人々に対する我が国婦人などの理解を深めるとともに、同地域における国際協力への我が国婦人の貢献について、広く国民の認識を高めるため、同地域における国際協力に関し、実践的活動および体験に基づく意見を一般男女から募集する。

〔主催〕婦人問題企画推進本部(本部長Ⅱ内閣総理大臣、構成省庁Ⅱ総理府、経済企画庁、法務省、外務省、大蔵省、文部省、厚生省、農水省、労働省、自治省)

〔協賛〕都道府県、指定都市、財団法人日本国際連合協会、社団法人日本エスカップ協会、日本放送協会、社団法人日本新聞協会、日本民間放送連盟

〔テーマ〕国際協力への婦人の貢献——平等・発展・平和
〔応募できる者〕上記4に掲げるテーマについて関心を持つ男女(在日外国人も可)

〔募集方法〕

(1) 内容 アジア・太平洋地域における国際協力への婦人の貢献に関する実践的活動および体験に基づく意見。取り上げる内容は、上記のテーマならびに国連婦人の十年中間年のサブテーマ「雇用・健康・教育」に留意すること。

(2) 字数及び用紙

ア 標題Ⅱ30字程度

イ 本文Ⅱ1200字以内

ウ 用紙Ⅱ400字詰原稿用紙

(3) 使用言語 日本語

(4) 意見文の観点 おおむね次のことが考えられる

ア 在(来)日外国人に対する我が国の婦人の貢献

イ 海外における外国人に対する我が国の婦人の貢献

ウ 外国居住経験のある我が国婦人の体験

エ 在日外国人の我が国婦人などへの期待
オ その他

(5) 記入事項

ア 氏名・年齢・性別・国籍
イ 住所・電話番号・郵便番号

ウ 職業または学校・学年

エ 所属する団体またはグループがある場合は名称と主な活動

オ 意見文の観点

(6) 送付先 各都道府県・指定都市婦人問題担当課(室)

(7) 応募締切日 83年10月31日(月)

〔選考と発表〕

(1) 参考となる意見は「アジア・太平洋地域婦人国際シンポジウム」討議資料に所収する。

(2) 特に参考となるもの(約5例)は、国際シンポジウムの席上、本人による発表を行なう。出張旅費は主催者が負担する。

(3) 上記の選考は選考委員会(国際シンポジウムの講師)が行ない、84年1月中旬ごろ本人に通知する。

〔その他〕

(1) 討議資料に所収された意見文の著作権は主催者に属する。

(2) 応募原稿等は返還しない。

〔参考〕 アジア・太平洋地域における国際協力への婦人の貢

献に関する実践的活動および体験の例

※ エスカップ地域の人々へ食糧・飲料水・栄養剤の贈呈、医療・看護活動者の健康を確保するための活動

※ エスカップ地域の保育所・幼稚園・学校等への図書・教材の贈呈、保母・教職員としての活動等、教育を高めるための活動

※ エスカップ地域の農業技術等を高めるための活動

※ エスカップ地域の労働者の能力開発等のための活動

※ エスカップ地域の風俗・習慣・政治・経済等社会事情を理解するための活動

※ エスカップ地域から来日中の婦人などへの日常生活上の手助けとなる活動

以上をこらんになって、どんな印象をお持ちでしょうか。

エスカップ政府間会議には、各国のエリート層が参加することは疑いありませんが、とすれば、一般人が参加するシン

ポジウムは、国際婦人年の主テーマ「平等・参加・平和」に

ズバリ則するものであってほしい。しかしこの「内容」や

「参考」を見るかぎりでは、エスカップ地域を「開発途上地

域」と考え、それに「恩恵」を施す「期待される日本婦人像」

があり、という思いを禁じ得ません。エスカップ地域に

対する経済侵略、性侵略の国としての日本を、我が心にどう

とらえ返すか、現地の人々、そして来(在)日留学生その他

の人々が日本をどう受けとめ、何に悩んでいるかを聞き、共に生きるために、私たちが、そして私が、何をすべきかを考える機会としてのシンポジウムにしたい……。

このため、このシンポジウムを全くボイコットしようという動きと、シンポジウムに積極的に参加して問題提起しようという動きの二つが早くもみられます。あなたはどちらをお選びになりますか。ご意見をぜひ編集部までお知らせください。

なお、当日の講師（そして意見の選考委員）は、次の5氏。（外国人学識者）筑波大学客員教授アリフィン・ペイ、アラブニュース特派員ユ・デ・カーン・ユスフザイ（日本人

エスカップ政府間会議に並行して

民間会議を開こう！

全く公式的な、アジア・太平洋地域諸国を見下した政府間会議に絶望、フェミニストの立場として「アジア・太平洋地域フェミニスト会議」を開こうという動きもあります。メキシコ会議の際のトリビュン、コペンハーゲン会議の際のフォーラムのように……。

どんな分科会を、どんな形で持ちたいか。あなたは何かができるか……ご意見をお寄せください。

学識者）慶大教授松本三郎、国際日本語普及協会専務理事西尾圭子、婦人問題企画推進本部参事縫田暉子（兼司会）。女性
は2名のみです。

太平洋戦争前夜をつくり

強化される「健全な子」の出産

母子保健施策答申の真相

中絶には優生保護法、産むときは母子保健法、と、女のからだは国家で管理されていますが、優生保護法強化とからみ、母子保健法の強化も検討されています。中央児童審議会では厚相の諮問を受けて母子保健施策の検討を続けていきました。7月28日、答申書「今後の母子保健施策のあり方」が提出されました。

ここで強調されているのは、「心身健全な」子どもを産み育てる管理体制の強化であり、一九四〇、四一年、国民優生法成立当時の「優良国民増産政策」をまさに彷彿とさせます。

先ごろの老人保健法改悪と考え合わせるとき、「役に立たない国民は不要」という、戦争準備体制をまざまざと感じます。優生保護法強化のはこ先は、今後「母子保健法改悪」の形で、胎児チェックその他となって実施される可能性も大きいと言えます。先月号で、「優生思想」が「障害者」をいか

に彈圧しているかを示しましたが、この場合、最も痛撃を受けるのは、またしても「障害者」と、その子を産んだ母となるでしょうし、「子宮の国家管理」はいよいよ強化されることになるでしょう。

報告書要旨は次のとおり。

〔はじめに〕 母子保健は国民の健康づくりの基本である。

我が国の母子保健は欧米先進国なみとなったが①出生率の低下、少産少死による高齢化社会への移行②低成長③都市化と住宅事情の変化④核家族化、離婚、女性の職場進出の増加④伝統的地域社会の崩壊⑤慢性難治性疾患の増加など、家庭・社会環境の変化も大きい。新たな母子保健施策展開の要がある。

〔健康調査および保健指導〕

(1) 妊産婦検診等の充実 早産、妊娠中毒症、病的新生児減少のため重要。健診情報が保健所等へ適確に伝えられるよう、健康管理カードを普及、各種情報機器の利用も検討する。

(2) 乳幼児健診の強化 問題児のフォローアップ、心身異常の早期チェックを強化、1歳6か月児健診を推進する。

(3) 妊産婦医療の充実 新生児・妊産婦集中強化治療室や患者搬送車を増加、臨床各科ならびに一般産科医院等との有機的連絡を拡充、専門技術者を養成する。

〔健康教育〕

(1) 母子手帳の活用 様式を改め、学校保健との連携を図る。

(2) 母子保健教育の充実 保健婦、母子保健推進員等を活用、

母親学級・育児学級を休日や夜間にも設け、授業内容を改善。
(3) 性教育の普及強化 十代の中絶とともに遺伝に関する知識の普及も重要。保健教育、相談機能の強化を図り、優生結婚相談所の機能を充実する。

〔実施体制〕

(1) 地域母子保健体系の再編成 現在は都道府県と市町村で分担しているが市町村に一元化する。老人保健制度における各種施策実施状況をふまえ、各種基礎整備をすすめる。

(2) 地域母子保健組織の育成 ①地域民間母子保健組織を育成する。②現行各組織は必ずしも有機的連携がないので改善し、地域ボランティア、保健婦、助産婦等との連携を図る。

(3) 母子健康センター指導部門の充実 助産に果たす役割は縮小したので、保健指導部門に重点を置く。

〔その他〕

(1) 母子保健従事者の養成確保 養成・教育施設を充実強化するとともに、地域職員の研修・再教育の場を確保し、資質の向上を図る。結婚等で引退した助産婦・保健婦も活用する。

(2) 婦人の職場進出への対応 従来、母親の健康が主眼となりがちだったが、今後は子と胎児の心身の健康管理に留意する。特に妊娠期から乳幼児期における母と子の相互作用が子の心身の発達に及ぼす影響は大きいので、産前産後休暇制度の有効活用、育児休業制の広汎な普及が強く期待される。

(3) 調査研究の推進 妊産婦死亡は低下したとはいえ、欧米の

水準にはまだ及ばず、妊娠異常、新生児の先天異常に起因する死亡も比較的多い。このため、各種健康阻害要因の発生予防、早期発見、治療管理技術の開発を重点的に推進する、個々の医療技術のみならず、保健・医療を一体化した総合的地域母子保健医療システムの開発に関する研究も必要。

タンポンは衛生上要注意？

米国では死亡例も

タンポンを使っていて膣炎、発熱、ふるえなど体の変調を経験した人は約1割。帝京大学が都内の看護学院生277人、高校生266人を対象にした調査で、黄信号がとまった（使用中、かつて使用は、看護学院生37・2%、19・5%、高校生15・0%、14・7%）。

タンポンと変調との直接の因果関係はこれだけではわからないが、タンポンの先進国米国では、高熱、頭痛、下痢、血圧低下などを起こし、時には死亡する「中毒性ショック症候群（TSS）」が数年前から問題になり、この患者にタンポン使用者が多いことから、タンポンの危険性が問われている。原因としては、手指を洗わないまま使用して黄色ブドウ球菌などに感染するのではないかと想像されており、タンポン使用の際は清潔第一に心がけることが必要のよう。

東京・国分寺に

「未婚妊娠」を支える会

3Kに風呂場、地域の中の一軒の「家」として「未婚妊娠」女性を受け入れようとする試みが国分寺で始まりました。2部屋は利用者のため、1部屋は毎日交替で宿泊に来るボランティアのため。共に食事を作り、話し、時に散歩に出かけながら、未婚で妊娠した若い女性が、妊娠という出来事を今後の人生にとって本当に意味のある経験としていけるように緒に考えていく。

82年9月から国分寺市で活動を開始した「麦の会」、正式名称は「宗派をこえて十代未婚妊娠女性を支える会」。さまざまな宗教や主義主張をもちながらも、自らの偏見と先入観、ひとりよがりや同情、批判をこえて交わりの場をつくらうというボランティアたち（家族問題研究家、牧師、神父、医師、弁護士、ソーシャルワーカー、主婦、学生etc）の熱意に支えられています。連絡先は公開できませんが……。

ネットワーク・ノート 84年版

好評の「女の手帳」がことしもできました。
850円。事務局までお申し込みを。

特集 からだを考える

なんか行くのが怖いな どんなことするのか

ハリとか、キュウって初めてのヒトはなんか怖いよね。あたしも思い出があるある。

東洋医学って言うとハリ・キュウってかんじだけど、もっとイロイロあるのですよ。中でもあたしは操体（ソウタイ）が好きです。これは「からだってというのは、気持ちのいい方向に動くことによって整うのだ」という考え方にもとづいていて、痛いのをムリしてグイグイ、治りたい一心でやるというのとは、ゼンゼン違う。

何よりもいいのは、やってもらってコッさえのみこめば、自分でできるという点です。

ムロン、ハリ・キュウだって、あたし自身が怖がりだから、痛いのやガマンするのはやらないよ。操体だけでいいヒト、ハリ・キュウを加えたほうがいいヒト、自律神経訓練法で治るヒト、いろいろです。

要は、あなたに合った治療をします。

＊

田中美津さんの、こんな語りかけで、〈あ
ごら読書室〉の一隅にオープンしたくれらは
るせ〉。小さなベッドと、カーボン光線と、
ハリの道具、そして時々、おキュウの香りが
たちこめる…。小さな小さなクリニックです。

おんなと子どものクリニック。というより
おんなと子どものからだ育ての場。小さな狭
い狭い場所に、小さな美津さんがちょこんと
いる。でも、なぜかくつろげる。

からだがつろぐということの気持ちよさ
は、心がほんとうにくつろぐということであ
ったと、あらためて思う日々。

今月は「からだの発見」「からだ育て」に
ついて考えてみます。（あごら新宿）

てれびのおんなのからだ育て あらいすぜ



どこかに自分の病気をサッと治してくれる
//名医// がいるに違いないっていう専門家へ
の幻想って強いからね。

そうじゃないんだ。

そういうふうに自分のからだを考えていたら
耳鳴りは治ったけど、今度はムクミがとれま
せん。ムクミはとれたけど足が冷えて、とい
う具合に、一生 //名医// と縁が切れなくなっ
てしまうよ。

近所のケンちゃんが、「今日の午後、急に
首が曲がらなくなっちゃって」とお母さんに
連れられて来た。

ケンちゃん一人にしてみらってまず軽く触
ってみたら……。

ワア、肩がゴリゴリ。

そのゴリが背部にズーッと続いているのを
診た上で、彼と一対一の話し合い。

クビが曲がらない男なんて ヤだ！

「ケンちゃんは本読むの好きなんだよね」

「ウン」

友だちから //虫博士// と呼ばれるケンちゃ
んは、なかなかの読書家。同年齢（6歳）の

子どもたちがドタンバタンしてる、その部屋
の片すみで一心に活字を追ってる様子は、ド
タンバタン専門の子を持つ親の目には、好ま
しく見えたけど……。

「ケンちゃんはいいつもどんな格好で本読んで
る？ ちょっとこの本持ってやってみてよ」

足をくずして、背を丸め、首をガクンと下
に落として、片手を壁につく——。やっぱり
ね。

「そういう姿勢で読んでると、重いアタマを
支えるために、首も肩もすぐムリがかかる
んだよ。だからゴリゴリになってる。ホラ、
わかる？」

わずかに触れただけで、身をよじって痛が

る。

「あたしサ、ケンちゃんの首がいくら痛くても、自分の首が痛いわけじゃないから平気だけれど、ケンちゃんはイヤだろう。それともこのままズーッとノクビ曲がらない男、でいたほうがいいかな」

「イヤだよ、ボク」

「そうだよ、ノクビ曲がらない男なんて、ヤだよ。自分で悪くしたんだもん、自分でガンばって治せるよね」

「カン！」

「ケンちゃんがそういう気持ちなら、あたし手伝ってあげる。足を出してごらん」

と言って、彼の見えるところに一本細いハリを浅く入れる。

「ホラっ、ゼンゼン痛くないだろ、これならガマンできるよね」

と、ここまで納得してもらってから治療にとりかかる。

いや、ここまでが

実は大切な治療なのだ

キミのからだはキミのものなんだから、ズーッとノクビ曲がらない男、でいるのもよし、ガンバって治すのもよし、どちらを選ぼうと

キミの勝手だ、と迫られて、ナルホド自分が作った病氣なんだから自分で治そう、という氣になった時点で、こどもの病氣はもう50%治ってる。いや、大人だってそうだ。

病氣をおいしく味わう

（心づいてお読みください）

自分で治そう、という氣になると病氣をよく味わうことができる。

誰かに治してもらおう、という依頼心イッパイの時は痛みは單なる痛みではないが、自分の病氣を自分で引き受けていくと、ナルホドこの動きをすると痛みが軽減するなア、とかのことが徐々にわかってくる。

つまり、自分のからだにとって気持ちのいいことと悪いことの区別がつくようになるのだ。

快、不快に対して、からだが敏感になつていく。人間気持ちのいいことは、言われなくともやるもので、快へ、快へ、とからだがなびけば当然治りも早い。

からだがからだを治していくのだ

日本図書館協会選定図書

婦人民主新聞

縮刷版

- 第一巻 1946年～1953年
- 第二巻 1954年～1959年
- 第三巻 1960年～1965年
- 第四巻 1966年～1970年
- 第五巻 1971年～1975年
- 第六巻 1976年～1980年

■お申し込み方法

頒布価額 40000円（全6冊）

※価格は送料を含んでいます

送金先

郵便振替 東京8・1964455

婦人民主クラブ

銀行振込 富士銀行青山支店

普通預金65282

婦人民主新聞 佐多稲子

◎ お電話でのご注文も受けつけております

婦人民主クラブ

東京都渋谷区神宮前3-31-18
電話 03(402) 3244
大阪市北区中崎西2-4-40
電話 06(371) 2429

弱いは弱いなりに……

それにいくら病気が治っても、ターザンみたいにになるわけじゃないからね。

弱いヒトは相変わらず弱いかもしれない。でも快、不快に対してからだが敏感になっていけば、弱いは弱いに自分のからだをコントロールできるようになるだろう。

そのことはもしかしたら

病気が治ること以上に

大切なことなのかもしれない

ボックリ病なんかで急死するヒトに限って平素丈夫で、「まさかあのヒトが」と言われるタイプが多いとか。

「丈夫なんかじゃなくて、からだがニブってて異常を異常として感じられない。快も不快も感じないから、極限まで肉体を酷使して平気。それを称して『丈夫』と言っているにすぎない場合が多いのだ。」

自分を知るということ

それやあれや想うと、からだが弱いってことや、病気になるってことは、そんなに悪いことでないのかもしれない。弱いから、からだの調子がどれほど気分に影響しているか、よくわかる。

それどころか、今までこれが自分の性格と思いつ込んでたら、実はからだの調子にすぎなかった。なんてことだって起こりうる。

人間、カンゾーの働きが悪ければ、どうしても怒りっぽくなるし、ジンゾーが悪いと不安が募ったり、脅えたりするしね。

東洋医学では、臓器と感情の関わりが明確にとらえられている。

心とからだはひとつ

——心身一如(しんしんいちじょ)

だから、からだが解きほぐれれば、心もほぐれる。心がほぐれれば、ヒトとヒトとの関係も自然にほぐれてくるわけで、こんなハズじゃない自分、こんなハズじゃない人間関係を求める心がグルグル回っているヒトは、

かたくなってる顔や肩のコリをまずとって、さア、フウッとひとつ大きく深呼吸してみようか。

「少しはラクになった？」

「ウン。」

ナルホド、来た時とは表情が違う。そう、その顔、その顔。そういう顔でいれば、職場の人間関係も段々にうまくいくよ。

こどもの心配？ 大丈夫。笑うカドには福来たる、なんだから。

「真実」というものは、案外単純なこともかもしれない、という気がしてくるひととき、きつとあたし自身もやさしく柔らいでいるに違いない。

だから名づけた「れらはるせ」

スペイン語で「リラックスする」

という動詞なんです、これ。

代名動詞の原形だから、「あなたが、あなたが、彼が、彼らが、あたしたちがリラックスする」という具合に、主語は無限に変化する。

遙かなる草原を夢見つつ



からだの問題をやっていると、公害や農業などの環境破壊や添加物などのいわゆるエコロジイの問題や、親子、夫婦、男女、職場の人間関係や、労働条件などの問題が当然、浮かび上がってくるだろう。

こどもとおんなが生き返していく
ということが

生理痛が

ラクになる



6 か月講座

この頃、自然とか、ケンコーがブームです。これを食べればとか、ここを指圧すれば病氣は治るとかのノウ・ハウの類いが巷にあふれている。ああいうの、ハッキリ言ってダメだと思う。

からだや病氣についての考え方は、従来どおりで、いくらノウ・ハウを知っても、少しヨガをかじって、それがダメだったら今度は太

男はムロンのこと、地球上の生きとし生けるものすべてを救う
そんな豊饒なやさしさとパワーに
つながっていったら……

輝く、遙かな草原を夢見つつ、今日、この日のいのちの賛歌(うた)を唄ってこようね。
この空間で唄っていかねばならない以上、理想どおりにはなかなかないでしょうが

極拳、それもダメなら次は自然食ってかんじで、結局はブームを追っかけてるだけでなんにも変わらない。ケンコー産業をもうけさせてるだけだ。

「れらはるせ」がやりたいのは、なぜからだからなのか、病氣ってなんだろう……etc 最も身近な自然である「あたしたちのからだ」のとらえ方を中心にすえながら、実際にドン・ドラクになっていくからだ育ての術を伝えることだ。

いろいろやりたいことはありますが、一番目は、なんといっても「生理痛」の問題であります。

「女のからだは子宮で治せ」と言う人もいるくらい、女のケンコーと生理とは深く結びつ

まア、ウソでも気楽に
ホントでも気楽に
ガンバっていきろと思います。

「親は買物、子は治療」

治療中は親のフリータイム。せつかく、病氣になったんだから、親は一步退いて、こどもに上手に病氣を味わわせてね。

いています。にもかかわらず、生理痛はあつてあたり前みたいに思われている現実。

この講座では、生理痛はなぜ起きるのか、東洋医学では女の生理をどんなふうにとらえているか、自分のからだ史考、といったこととともに、生理痛がラクになる、自分でできる術を伝えます。

生理痛をどうにかしたいヒト

中絶や出産後のからだを整えたいヒト

疲れやすくて困っているヒト

ぜひ参加を！

●新規受講希望の方は、ハガキで連絡してください。土曜日の午後の予定です。

危険な避妊具が輸出されている！

女たちよ、自分で自分のからだを守ろう

世界各国で、フェミニストによる「おんなのからだ運動」が盛んです。おんなの生理を仲間たちと一緒に考え、受胎調節などをする「おんなのクリニック」も、あちこちに出まいています。とくにアメリカにはたくさんあるようですが、カリフォルニア州のチョコで、「チョコ・ウイメンズ・ヘルスセンター」を開いているソーラ・ディレーさんと、ロバータ・マースさんが、9月28日、4日間の滞日期間の1日をさいて、へあごらVで、「おんなのからだ運動」について話してくださいました。

おんなのからだの

国家管理に警告を

私たちは、女のヘルスセンターの運動がとても大切だと思い、アメリカの国内だけでなく、ヨーロッパやオーストラリアやメキシコや、キューバや中国や、世界のいろいろな国を回って来ました。そしてその行く先々で仲間と出会い、互いに力を高めあってきました。

た。

フェミニストとして大切な問題はたくさんありますが、中でも大事なのは、生殖を自分でコントロールすることだと思います。アメリカでは中絶法獲得のたまたかとともに、スベキュラムを使って自分のからだを知ったり、排卵日を自分で把握し、妊娠や避妊を自分自身で決定する運動を進めています。

同時に途上国における人口政策が女の生活をどのように操作しているかを考えることも

大切です。ビルとかIUDとかホルモン注射とか避妊手術といった強い方法が女に施されており、特に中国や中南米のように人口政策が重要な課題になっている国では、女のからだに国策のしわよせが来ています。一度注射すれば3か月は効果が持続するものも開発され、それを1年に伸ばすように研究がすすめられています。これらは恐ろしい副作用があるのに、国策が優先しようとしているので、各国の実態調査をいま行なっているところで

もう一つは避妊手術が強力な人口抑制策として行なわれていることです。女の同意なしに強行されている国もあります。また、IUDなど、死者も出たような危険な避妊具を、アメリカで使えなくなると、途上国に売り込もうとする動きもあり、それらに警告をする

のも私たちの活動の一つです。

さらに、女の性生活を考える運動もしています。男によってだけでなく、同性によって得られる欲びを含めてこの問題を考えています。性感帯についてもフェミニスト的な視点で調べてみた結果、ワグナカクリトリスかという長年の古典的論争に対しても、私たちの答えを出せるようになりました。

自分自身のからだを大切にするという考え方は、自然破壊や核戦争に反対したり、資本主義やマルキシズムを考えることも必然的に結びついていき、私たちの運動も、そうし



ソーラさん



ロバータさん

た方向に発展していています。

日本のほうが進んでいる避妊法

避妊具はいろいろありますが、ビルとかIUD、ペッサリーはアメリカでは簡単に手に入りますが、コンドームや発泡剤はむしろ手に入らない状態です。私たちは「子宮キャップ」と呼ぶペッサリーをすすめています。

私はきょうホテルの中の薬局に行って、コンドームや性についての小冊子を買いました。その記述はたいへん正確でした。それに比べればアメリカでは情報が全くないと言ってもいいほどです。日本ではコンドームの使用率が高いようですが、これはアメリカよりもいい方法です。米国では60-70%がビルを使い、その次が避妊手術で、次がペッサリー、そしてIUDです。

70年代の初めはIUDが一番人気がありましたが、フェミニストたちが調べた結果、IUDは大変危険なこと、13人も死亡例があることなどがわかりました。IUDを使っているて妊娠したり、IUDが移動したりすると、生命にかかわることもあるのです。IUDのヒモがからだを傷つけることもあります。

IUDが危険だという説は、アメリカではだいぶ浸透し、もうほとんど売れなくなったので、開発途上国に輸出しています。IUDに限らず、危険だとされたものは、すぐ輸出されるのです。さっき話したホルモン注射も、感度のいい人たちが危険だと騒ぎ出すとすぐ、国内で発売を中止し、知らんぷりをして輸出を始めました。

私たちはフェミニストとして、アメリカのビル全盛を、日本のようなオギノ式プラスコンドーム方式に変えたいと思っています。日本に比べればアメリカの状況はさんたんたるものです。ビルは卒中や心臓マヒなど副作用が激しいうえ、女が医師に依存する習慣をつくります。

「セルフヘルプ運動」をしているクリニックでは、自分のからだを知る方法を指導したり、ペッサリーをつける技術を教えています。

えっ、メンスが10分で終わる?!

もう一つ、私たちが力を入れているのは「経血吸引法」です。生理の出血を真空方式で吸い取ると、生理期間を短縮することもできるし、初期の中絶にもなります。世界中の「セ

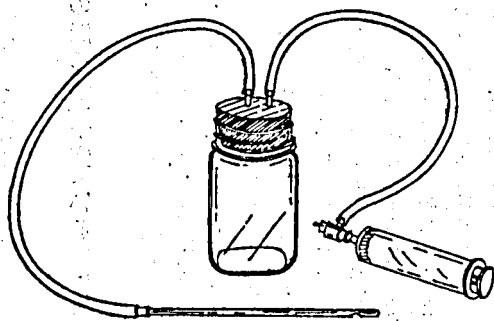
ルフヘルプ」学習者たちが、この方法を実行しています。政府、つまり男たちの思いのままになるのではなく、自分で自分のからだをコントロールする方法を体得したのです。

コップを使って実験してみましよう。コップ一杯の水が、ほら、このとおり、あつというまに吸い取られてピーカーの中に入りますね。実際の経血の場合は、こんな10—20秒という高速ではなく、長い時は1時間もかけてゆっくり吸い取ります。機器は、安全のための二重三重の装置がついているので、空気が逆に体内に入るようなことはありません。忙しい人で早く終えたいときは10分で吸い出すこともできます。好きなだけ吸い取れますが、完全に吸い取ってしまうと、それでその月のメンスはもう終わり、というわけですから、生理痛も全く取り去ります。

この方法は、何人かが見守って行ないます。ある人は、操作中、本人のものもさすったり、話をしたりして気持ちのリラックスさせます。仲間で見守ることによって、安全も保たれます。グループですることが重要です。

この方法では自分のからだに今何が起きているかがわかるし、少しでも具合が悪ければ、「そこでやめて」と言って、すぐやめること

もできます。私は、最初はごくゆっくり抜いてもらいましたが、だんだん慣れてきました。管の太さは4ミリ程度で、痛みはありません。吸い取った経血の中に、モヤモヤした小さな組織が入っていることもあります。調べてみると、これが胎児の萌芽である場合もあります。顕微鏡で調べれば、がんの早期発見もできるでしょう。もちろん、血液の色などで健康状態を知ることでもできます。また、ニュージランドのように、中絶が禁止されて



いる国では、「おんなのからだ運動」の人びとが、中絶の手段としてこの方法を使っています。

しかし、男の医師たちは大反対で、さまざまな妨害や弾圧を私たちに加えています。理由はただ一つ、「自分たちがもうからなくなるから」です。

自分のからだは 自分でたしかめよう

次にスライドをお目にかけましょう。ごらんのように外陰部の形は人さまざまです。これはスベキュラムで腔口を拡げたところ。奥に見える小さな穴が子宮口ですが、排卵期にはこの穴が大きくなり、すきとおった粘性の強い分泌物が出ます。スベキュラムを使い慣れると、自分の排卵日を確実に把握できるようになります。

この写真では、腔口が充血し、おできのようなのが見えますね。しかし、これは心配のないできもので、顔のニキビみたいなものです。

こちらはただれが激しい状態。このような状態の時は治療が必要です。

IUDのヒモでできた傷やタンポンでついた傷などもわかります。

それでは、現実にはスベキラムを使ってみましょう。奥に見える小さな穴が子宮口です。

スベキラムを使うときも、何人かのグループでチームを組むことが大切ですが、中の状態は、誰よりも先に本人に見えます。鏡を使えば、自分のからだの中の状態がよく見えます。本人が見えないうちに、周りの人が、ワアとかキャッとか言うのと、本人は心配してしまいますものね。

(台の上に乗ったロバータさんは、さっと下着をとって実験台をつとめました。化学の実験を観ているようなさわやかな気持ちでした。ひきこまれて、全員が、1個千円のスベキラムを買いました。女の大切な部分は、隠さなければならぬ不潔な所と、日本では考えられがちですが、口の中を調べるのと全く変わらない感じで彼女たちは点検しています。考えてみれば、今までそんなふうにしていなかったことのほうがおかしかったという気がします。すばらしい時間を共有できました)

た。

ソーラさん、ロバータさん、ありがと。

彼女たちがつくった「女たちによる女のからだの発見の本」『新●おんなのからだ』は、たくさんのイラスト入り。翻訳出版の準備をさっそく始めました。早く日本語版にして、皆さんにお目にかきたいと思います。

近刊■予約は1割引

声なき虐殺

戦争は精神障害者に何をしたか

塚崎直樹編 1500円

まず、おなかかふくれやがて激しい下痢。そして突然の死。——収容され、抵抗するすべも知らず死の道を歩んだ人びと。戦争が弱者を痛撃する姿をまざまざとえがき出した貴重な記録です。「平和」を志す人、「障害者」運動や医療にかかわるすべての人に、ぜひ読んでいただきたい。

自立の心理学

ほんとうの「自立」とは

しま・ようこ編 1500円

△自立Vってなあに？始まり、△自立Vの意味を徹底的に問い直してみました。しま先生を囲む△あこら可能性教室Vの記録です。やさしい話し合いの中に、心理学の真骨頂が光っています。

やせる本

3週間の心理療法

エルジー・バーキンショウ著
あこら翻訳グループ訳 1000円

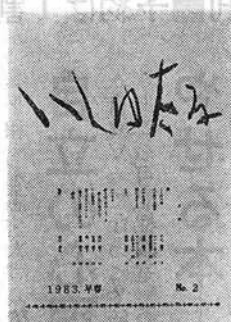
食事療法をしている間はやせても、すぐ元に戻る……それは△肥るV根本原因を考慮してないためです。「なぜ肥ったのか」から問題の本質に迫ったこの本は、アメリカの女性心理学者による、△やせる教室Vの実践成果に基づくもの。「自分を変える本」の続篇とも言えます。

BOC出版部

東京都新宿区新宿1-9-6

振替 東京3-39331

読む



「女性が詩文を書きつつ生きる意味を問うて、詩と女性学との『接点』をめざし、人と創造力との『接点』となることを志した」女性だけの詩誌『いしゅたる』が生まれて1年。B5判、クラフト紙、篠田桃紅さんの題字を配したしつとりと美しいこの詩誌は、『いしゅたる』（地母神）の名のとおり、大地にどしりと根づいたようにみえる。

毎号、5つ6つの詩と、5つ6つのエッセイが、それぞれひと見開きずつ。エッセイのひとつには、永瀬清子、高田敏子さんなど、先達の詩人たちの連載「書きはじめのころ」も含まれている。それぞれの短かさが、乾きではなく、豊饒さとなっているのがうれしい。呼びかけ人は、高群逸枝の評伝でも知られ

文字

琉球弧の 島々の
貧しい草屋根のしたに生まれ
売られて

餓鬼猫のひもじさに耐え
蛇皮線と
踊りを仕込まれ
首に白粉ぬり

且那をとるより生きるに道なく
尾類とよばれる

わたしは息をのむ
その二文字に打ち据えられて

堀場清子さん、ハあごらVの会員水野るり
子さんなど、四十代、女さかりの詩人たち。
3号は「女性にとって戦後とは」を特集、石
垣りんさんの詩、富山妙子さんの絵と文、田
中寿美子さん「戦後38年、女は何を得たか」、
伊波圭子さん「沖縄女性の戦後」など。

四足にみた戯字といひ

宛字にすぎないとも いうが

ならば なお

どんな美しい字も宛てられように

じゅりたちは

情愛まめやかに // 家庭 // をしつらえ

旦那に義理をたてとおしたと

男たちはいまに讀える

それでいて

ビルイ と書かれた女と

書いて痛痒を感じぬ男とが暮らす島

うりずんの雨のように

家々をうるおす無限のさびしさ

いしゅたる社

〒249 逗子市小坪7の11の39
電話 0467-2511253
定価 500円 送料200円

声

◆みなさんお元気でいらっしゃいますか。

一昨夜、とてもうれしい電話があったのでお知らせいたします。田口美香さんという知らない人からの電話だったのですが、「あごろの読者です」の一言で、すっかり旧知の間柄のように話せました。「ミニ」に私の名前を出していただいたことから電話をかけて下さって、読者どうしが出会えたのです。

彼女は下関に住んでいて、北九州市の板櫃公民館の八女性問題研究会Vをとおして、とても深くまじめに女性問題に取り組んでいらっしゃいます。「結婚と性」の学習会で優生保護法を取り上げるので最新情報を、ということ、山口県連絡会のニュースやチラシ等を差し上げました。連絡会の運動は、私にとりましては自分の能力の限界を超える仕事をしなれば要求され、とてもシンドイ一面もあるのですが、こんなにうれしいことも運んでくれました。下関に未知の『あごろ』読者がいたことは、驚きであり、とても大きな喜びです。十一月に開かれるという福岡での運営

会議にご一緒しようか、などとも話し合いました。

(下関市 森川万智子)

◆いま男のお子さんを育てていらっしゃるお母様方にひとこと。家族の一員としての自覚を大切に育ててあげてください。家事も教えてあげてください。女のお子さんをお持ちの方は、女のくせに、とか言わないで、自由におおらかに、またきびしく、おのれの人生の尊さを教えてあげてください。

(東京 樋口真由美 22歳 証券営業)

◆1月から読み始め、会員となって6か月、全く消極的な、読み、ファイルするだけの会員です。いろいろな矛盾を感じながら、仕事や日常に埋もれています。29号テーマに関しては必ず意見を出します。

(福岡 石川幸江 20代 施設指導員)

◆夫の転勤で八あごろ仙台Vを離れて、もうじき1年。新しい土地で少しづつでもいい仲間を探して読書会から始めようと思ひ婦人会館を訪ねても、実技を伴うもの(料理とかジャズダンス)ならよいが、思想に偏ったものはお断わりと言われた。たった1人ではがんばるのに疲れて小休止したままです。近所の人からは「自分の生活に疑問は持つが、つきつめて考えるのはめんどろくさく、何かをしよ

うとしても、また転動がくる」と言われ、むなししい世間話に終始しています。

(郡山 磯松多紀子 20代 消費生活相談員)

◆小型になったMINIもなかなかいいですね。『あごろ28号』も重量ではないけれど本当に重い特集でした。今日(きょうび)の『軽薄短小』の雑誌の中にあつて、このような重みのある本が発行され続けられることを期待しています。

フレ、フレ八あごろV
ガンバレ、ガンバレ編集者

(東京 こんべ保育園 丸山新男)



えいもむしろう

◆初老期―若い人々との交流を図り、たえず流動している時代へ、新しい感覚で対応していきたい。

非行問題と婦人問題は表裏の関係にある。

意外に知られていないが、非行に走った少年は、母親の夫（父）に対する姿勢について、驚くような新鮮な思考をもっている。

（上田市 松浦章 60代 元施設相談員）

28 号

◆優生保護法は、もともと遺伝病による障害者の断種手術や障害児の堕胎を合法化している法律だ。この「差別立法」で女性たちの中絶が許されるのはおかしい。刑法の堕胎罪とともに同法も撤廃し、女性が自分の意思で中絶することが障害者を差別することにつながらないようにしよう。こんな考えは反対派の女性運動の中で強い。単なる「経済的理由」の削除反対を超えた主張だが、雑誌『あこら』28号は特集「産む、産まない、産めない」で、優生保護法に貫かれている劣った資質の人間は抹殺するという「優生思想」に全面的な批判を加えている。斎藤千代さんの論文「見えない〈道〉」は、なぞが多いとされる優生保護法成立の経過を追う。反差別の視点からの克明な記録は、研究書の少ない中でこの問題を論じる際の必読資料といえる力作だ。

では女性たちは、優生保護法に代えて、どんな中絶許可の制度を欲しているのか。『あ

こら』のヤンソン由実子さんの「優生思想のない国——スウェーデンにおける性の自己管理」や座談会「これからどうする優生保護法」では女たちの側からの中絶法の制定に論議が及ぶ。

現在までの各地の「改正」阻止運動のドキュメントは『あこら』に詳しい。10年前、運動のリーダーだった田中美津さんがインタビューに応じ、東洋医学の見方から独自の「いのち」論を生き生きと語っているが、共感する読者も少なくないだろう。

（秋田魁・山形新聞 ほか、各地方紙）

◆力作の号だと思います。どの論文もそれぞれよかったと感じましたが、今橋氏のものが多少説明不足（？）で説得性がないように感じました。この号全体がテキストになりそうですが、あえて言えば「見えない〈道〉」が英文化されればとても役立ちそうです。

（東京 八木江里 大学教員）

◆1800円と、またまた厚く高くなって、読み始める前からため息。友人にすすめる前から無理だわ。すでに何らかの活動をやってる人たちはさっそくすすめて購入希望を得ましたが、我が家に集まっている主婦と言われる人たちは全然買う気にならない。千円ま

でにして厚さも半分に。資料集は別に。

（大阪 鈴木恵子 会社員）

◆改悪反対の立場からのいろいろのご意見を読み、参考になりました。ゴールデンウィークにソ連北欧の母子保健視察旅行に際して、この問題も若干見聞して来ましたが、国がら、国民性のちがいがあるとはいえ、改悪絶対反対で闘いつづけましょう。私は1911年生まれのお医者です。男性だったからか、『あこら』の存在を知りませんでした。店頭にあまり出回っていない故でしょうが、もう少しPRして多くの人が読むように希望します。

（福岡 畑瀬幸雄 病院長）

◆優保法反対の立場の特集の思想に敬意を表します。①私見でなく、事実の資料が極めて貴重②ヤンソン由実子の記事を評価する③新島淳良の記事は場ちがい、紙の浪費④例えば我妻堯からでも胎芽と人間の生命の相違の医学論がほしい（太田典礼は熱狂的すぎる）。敵は「生命」が主権だから⑤政治家個人の意見、立場の一覧表作成の労力を高く評価⑥中絶に関する各国の法律は実情がわからない。できれば先進各国の実情が知りたい。

◎編集各位の情熱と、事実、資料を重んずる着実な姿勢に感銘する。日本は性、女性に

ついても中進国。皆さんがんばって下さい。
(東京 斉藤傳七70代 家族計画問題評論家)

75 号

◆ミニ版になり、レベルが上がったように思う。ページ数が少ないため、ミニ版のほうが読みやすい。内容豊富、どの記事もみんなダイアモンドのよう。よくこのように編集されました。編集員の紹介、お願い! バックナンバーの紹介もして(内容、テーマなど)。あごらの名前の由来も……。表紙の使い方はバグン。(林レイ 30代 洋裁)

76・77 合併号

『女・「障害者」そして……』複雑な思いで読み終えました。残念ながら、ほとんどと言っていいくらい、優生保護法については、知識もなく、また関心もなく過ごしてきたので、内容について具体的な批判・感想はないのですけど、障害者の方たちの呼びがわかるような気がします。私自身は障害者ではないけれど、在日韓国人二世として生まれ育ち、差別を身をもって体験してきているし、弱者に対する強者の思いあがりというか、うわべだけの親切心みたいなものも感じて生きてき

たからです。

障害者の方たちを一人の、一人前の人間として認めなければ障害者たちと一緒にやっていくことはできないのではと思います。

私は韓国人として本名を名のっています。

在日朝鮮・韓国人の中には通名(日本名)を名のっている人が多いので、全国に約70万人と言われるにもかかわらず、その存在がごく少数、特別な存在と思われるらしい。

講座とか、いろんな場で初対面の人は私の名前が皆さんと違うので、けげんそうに、または不思議な顔をしますので、韓国人だということをご報告します。その後で、そのことに触れている話をしみますと、きまって、「全然そんな風には見えないわよ(日本人と変わらないという意味で)」、日本で生まれ育ったのだったら日本人と同じじゃないの」とか、「日本の国籍はとらないの? 帰化は?」とか言われるのです。私も障害者の方と同じく韓国人であることに誇りを持っていますから、毎回同じようなことを言われるたびに、何も日本人が一番良い民族でもないし、帰化するとか、日本人と同じだとか、変な慰めみたいなものに閉口する思いを味わうわけです。韓国・朝鮮人を日本人より一段低く見てい

るので(気づいていないかもしれないけど)

そんな風には見えないとか、帰化すれば……

など、本当に失礼だと思います。障害者の方

たちも、その辺の、微妙な感じを常に感じているのではないでし

ょうか。私自身は障害者

をかわいそうだと思っ

たことはありません(体の

の不自由な分だけ生活するの

に苦勞はあるで

しょうけれど)。かわい

そうだと思うことが、

すでに一人前の人間として認

めていないこと

につながるのではないで

しょうか。かわいそ

うと思わないことと、手助

けをするというの

は別のことだと思

うのです。一人前の人間と

して、相手を認めるというの

は大変なこと

ですが、認めあわなければ、人間関係が発展して

いくのに少しムリがあるよ

うな気がします。

ハ集会からVの「低調だった反戦署名」は

自分のことを言われている気がしました。と

くに若い女性たちの無関心さが書いてありま

したが、私自身の感想として(弁解も含めて)、

仕方ないというか、無理もないなという気が

しないでもありません。私たちの年代以降(私

は昭和30年生まれ)は、学生運動に縁がなく、

政治運動みたいなものに変に懐疑的なところ

があるようです。私が高校に入学した頃(昭

和45年)は学生運動が下火になり消えかけて

いました。学生運動が下火になると同時に学校自体にも活気が失くなり、また学校側の対応もそういうものに対しての非難めいた風潮が濃くなり始めた頃で、私たちの時代は三無主義と呼ばれました。年上の方は、若い人たちは気がない。活気がないとおっしゃいますが、もっともなことだろうけど、青春時代のそうした背景を考えず、少し性急な気がします。それに、政治的な立場からしてみても複雑にからみあい、あいまいで明快なものはありません。△あごろ△はどんな宗教政治団体とも関係はないことですが（私は素直にそれを信用していますが……）、単に署名と言っても、それがどのどういう団体と結びついているのか（表面には出ないが、陰では利用されたりして……）不安でならないのです。いろいろな情報が飛び込んでくる中で、どれも本当に思えて、思わずひるんでしまうことが多いです。だから若い女性の無関心を嘆くだけでは片手落ちのように思うのです。そうなった背景、そうさせてしまった背景（本人自身の自覚もあります）にも目を向けるべきではないでしょうか。

30代、40代、50代の母親が自分の子どもをどのように育てたか、タテマエと本音があっ

て、よそ様のお子様はどんなおやりになって下さい、でも自分の子どもは大事に大事に箱入り子どもにしている方が多いではないでしょうか。意外に協力的だったのが額をそりあげた中高生とありましたが、署名をすればそれでいいのでしょうか。案外無責任な興味本位からかもしれません（それでも、しないよりは、ましの声もしますが）。本当に署名すればいいのでしょうか。昨年に比べ、熱気がなくなったということ、「のどもと過ぎれば暑さを忘れ」では困ると思いますが、署名とか、集会に素直になれない、無関心にさせられてしまった（言いすぎかもしれませんが）そんな世代のあることも知ってはいいなと思いましたのでペンをとりました。

（東京 金順玉^{きんじゆんぎよ} 20代）

「事務局から」

◆IFJライブラリーが読書室の一隅にフェミニズムに関する洋書の棚が一つできました。ここを拠点に、国際的な情報ネットワークをつくる話も進められています。

◆外国のフェミニストを案内する方

△あごろ△は、最近とみに国際化（？）し、外国からのお客が絶えません。女の施設やフ

エミニストグループなどを案内し、通訳する方、ご連絡を。外国語の実地練習をかねて、あなたもいかが？ 完べきでなくても可。

◆事務局員に佐藤陽子さん

明るい笑顔、きれいな字で、事務局に温かい風を絶やさなかった北村三和子さんがニューヨークに越され、6月から佐藤陽子さんに代わりました。「事務は苦手」と言いながらすばらしい事務能力を発揮。みんなを喜ばせています。（なお、コペンハーゲン会議で活躍の大石まゆみさんもニューヨークに）

あごろに広告を出して 財政を支えましょう！

<あごろ>はどこからも一切の援助を受けていないだけに、財政の窮迫は深刻です。広告をできるかぎり出し、みんなで財政を支えませんか。

このスペースは<あごろ京都>で拠出しました。

<あごろ京都>一同

女のこと・女の講座

日 時	テ ー マ	会 場
10月11日(火) 18:30~20:30	「新國際秩序と軍拡」＜市民のための平和学＞	名古屋 野間法律事務所 052-961-3721
12日(水) 18:30~20:30	「インドにおける女性と少数者」ジョッパ・チヤタジー女史（インドの女性解放運動家）会場整理費＝300円＜日本キリスト教文化協会＞	東京・銀座・教文館 9 F ホール
13日(木) 18:00~21:00	あこら札幌・例会	喫茶のあ 011-511-1377
14日(金) 10:30~12:30	「愛のひとくち」＜憲法使いのおじいさん＞（インド映画）	市立図書館会議室
15日(土) 14:00~	あこら佐世保・例会	日中経済協会 地下鉄青山一丁目下車 鈴木宅 0726-26-5509
16日(日) 11:30~15:00	あこら大阪・例会	青梅線 東青梅駅下車徒歩5分
19日(水) 10:00~15:00	「男女共修家庭一般」都立豊林高校授業参観 授業者 樋口照子 名作の中の女性像一野上弥生子・宮本百合子・佐多稲子著作から 講師 吉見潤子＜神奈川女性アカデミー＞	神奈川県立総合センター
21日(金) 13:30~15:30	「4・19学生革命と日米安保」講師 池 明規＜日韓関係史通説講座＞	本多公民館 国分寺駅北口5分
22日(土) 18:00~21:00	あこら九州・例会	福岡市立婦人会館
18:30~	真に役立つ男女雇用平等法をつくらせよう！＜10・22集会実行委＞	主婦の友文化センター
25日(火) 10:00~12:00	あこら京都・例会	イソコホーム
26日(水) 18:30~21:00	鉄道裁判第30回公判（佐々木元子反社闘争）	東京地裁民事19部
27日(木) 10:00~12:30	「台湾ではいま」報告者 大島孝一＜フジの女たちの会＞参加費 500円	渋谷勤労福祉会館
28日(金) 19:30~12:30	あこら東海・例会	名古屋婦人会館
12:30~18:00	あこら佐世保・例会	市立図書館会議室
30日(日) 14:00~17:00	「男女が平等に働くために」日本弁護士連合会	金沢市文化ホール大会議室
11月4日(金) 13:30~15:30	湘南あこらを語る会 問い合わせ 045-833-3680 向後	フソニイ 大船駅下車7分 0467-46-4086
5日(土) 17:00~	フレンジウの嵐一戦争への道 講師 吉見潤子＜神奈川女性アカデミー＞	神奈川県立総合センター
12月(土)~13日(日)	「女性の生き方を考える一さわやかに主体的に生きる」6日 16:00まで 講師 河野貴代美 連絡先 600-0245 池田	葛飾区水元公園3-3 東京都水元青年の家
13日(日) 14:00~16:00	「おいしさ発見・出合いのフエスチバル」くらしかえたい連続行動準備会	代々木公園B地区 03-234-3844
16日(水) 13:30~15:00	「男と女の新しい関係」宮 淑子＜秦野市民の学校＞	大根公民館和室 0463-77-7421
18:30~21:00	「歴史と女性」講師 林展辰三郎＜国立婦人教育会館公開講演会＞	国立婦人教育会館 乗車申込み10月31日迄
	「韓国ではいま」報告者 大塩清之助＜フジの女たちの会＞	渋谷勤労福祉会館
	参加費 500円	

『子どもがあぶない(仮題)』——原稿募集!

子どもたちが荒れている。そして大人も……。これを「教育の荒廃」と受けとめて、「学校が悪い」「いや母親が悪い」と言い合うだけでいいのでしょうか。その間にも、事態は刻々悪化していく……。何が問題で、どうすればよいのか、真剣に考えたいと思います。秋の特集、あなたの心からの声をお待ちします。

◆論文 400字程度 ◆手記 20枚以内。できれば資料、写真も。 ◆インタビュール 10枚程度 ◆現場レポート 20枚以内。できれば資料、写真も。 ◆書評 1枚程度

●締切 10月20日必着 ●宛先 東京都新宿区新宿1の9の6 あごら編集部
●謝礼 論文1篇3万円、手記・インタビュール5千円、ルポ1万円のあごら図書券。

●講演や学習会のテープをほどこして下さる方
勉強会やさまざまな集会の記録のテープがあります。根気のいる仕事ですが、聞きたることは何よりの学習にもなります。遠隔地の方も歓迎! ご連絡を。(少しですが、「薄謝」も出ます。

●『声なき虐殺』——戦争は精神障害者に何をしたか
貴重な掘り起こし作業の記録が近く刊行されます。定価1500円、予約募集中

全国10の図書館に 『あごら』バックナンバー をプレゼントします

△あごらVの赤字を埋めようと、買い求めた図書券が、いつのまにかたぐさんたまってしまっていました。そこで、全国10の図書館に、バックナンバーセット(1、8、9、10、11、18、19号は欠)をプレゼントしたいと思います。女の問題を考える方々に、多少はお役に立つのではないかと思います。(実は私自身、バックナンバーが結構役に立っていますので……)

△近頃の図書館、学校図書館、公民館などで、ご希望のところがあります。お知らせください。(ハガキに、館名、所在地、電話番号、責任者と、紹介者名、紹介者住所を書いてお送りください)

宛先は、東京都新宿区新宿1の9の6

あごら事務局

斎藤 千代

〔編集後記〕 前夜9時に中国から成田に着いたという2人は、嵐の中を△あごらVへ。

数々のスライドを示し、最後には自身のからだも示して、「おんなのからだ」をさわやかに語ってくれました。

10分でメンスが終わってしまうという新方法に嘆息したり、映し出される映像の数々に自分のからだをどんなに知っていたか、再発見したり……。そして、ビルやIUDが許可されていない日本の避妊法はススペンドイルとはめられてムズムズしたり……。

10年前のビル解禁運動に何かうさんくさいものを感じていましたが、クスリや器具に頼らず、まず自分自身のからだを知ること、やはり自立の基本、と改めて思ったことです。

△あごら読書室Vにオープンした田中美津さんの「れらはるせ」も、基本はやはり「自分自身を知ること」、そして、「自分自身を大切にすること」。——そう言えはソクラテスも「Know thyself」(己れ自身を知れ)と言っていましたね。

それに付いても、中国の女性の避妊状況を見てきた2人が長嘆息していたのが気になります。産めない国、産めない人たちがいることを、少なくともフェミニストと自ら名乗る人間は決して忘れたくないと思います。(R)